

小塩江小学校だより

宇津峰のふもとから

平成28年5月6日(金) 須賀川市立小塩江小学校 校長 木村 恵子

・ ふるさとを知る！

右の図は小塩江地区で確認された主な遺跡の地図です。ここから分かることは、「大昔、小塩江地区は、山や川などの自然に恵まれ、豊かな生活が営まれていた土地であった」ということです。

さて、学校では、さまざまな校外学習や外部講師による出前授業等をとおして、「ふるさと」学習を充実させていくことも大切にしています。

今年度、まだ1か月ほどですが、育てたい力を明確にしなが、それぞれの学年で積極的に実施してきました。「小塩江には、コンビニもないし、大きなお店もない…」

と、ないものを探し始めたときりがありません。それよりも、目の前の、足元の「あるもの探し」をして、地域を知り、地域のよさを発見する活動を積み重ねていきます。「雄大な山がある。清らかな川がある。線路がある。駅もある。やさしい人がたくさん暮らしている。自分のことを大切に思ってくれている家族や友達や先生がいる。」

あるある探しをしながら体験活動を充実させたり、たくさんの人と関わらせたりすることによって、地域のよさに気づき、地域から学び、学んだことを地域に生かしていける「ふるさとを愛する子ども」を育てていきます。



3年いいところあるある探検



・ 働くことに興味をもつ！

その際、もうひとつ大事にしているのは、「働くこと」に対する興味関心を高めることです。

子どもたちは、時折講師の方々こんな質問もします。「子どもの頃からその仕事になりたかったんですか?」「仕事をしていてうれしい気持ちになったのはどんなときですか?」

子ども達は大人の小さかった頃の話聞くのが大好きです。たくさんのお話をとおして、人々が社会の役に立ちながら、「自分らしい生き方」をしていることに気づいてほしいと願っています。

—ぼくも将来、消防士になろうかなあ…

—6年の歴史の勉強をきっかけにして、学芸員になったんだ!

こんなつぶやきが子ども達からうまれます。このような活動が、職業観を育てるキャリア教育とつながっていくものと考えます。

保護者の皆さんにも、自分の子どものころの夢や職業などについてお子さまと語り合ってみることをお勧めします。

